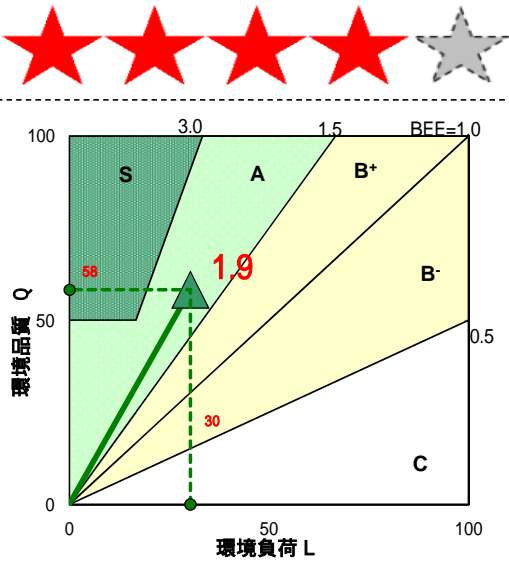


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

建物概要				外観
建物名称	(仮称)三菱電機(株)液晶事業統括部	階数	地上2F	
建設地	熊本県菊池市泗水町住吉	構造	S造	
用途地域	都市計画区域内(未線引区域)	平均居住人員	270 人	
気候区分	地域区分	年間使用時間	2,500 時間/年	
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2014年10月 予定	評価の実施日	2014年2月24日	
敷地面積	130,416.68 m ²	作成者		
建築面積	2,096 m ²	確認日		
延床面積	4,050 m ²	確認者		

1 CASBEE評価結果

建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)




環境品質 Q

環境負荷 L

BEE = 1.9

ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

81%

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

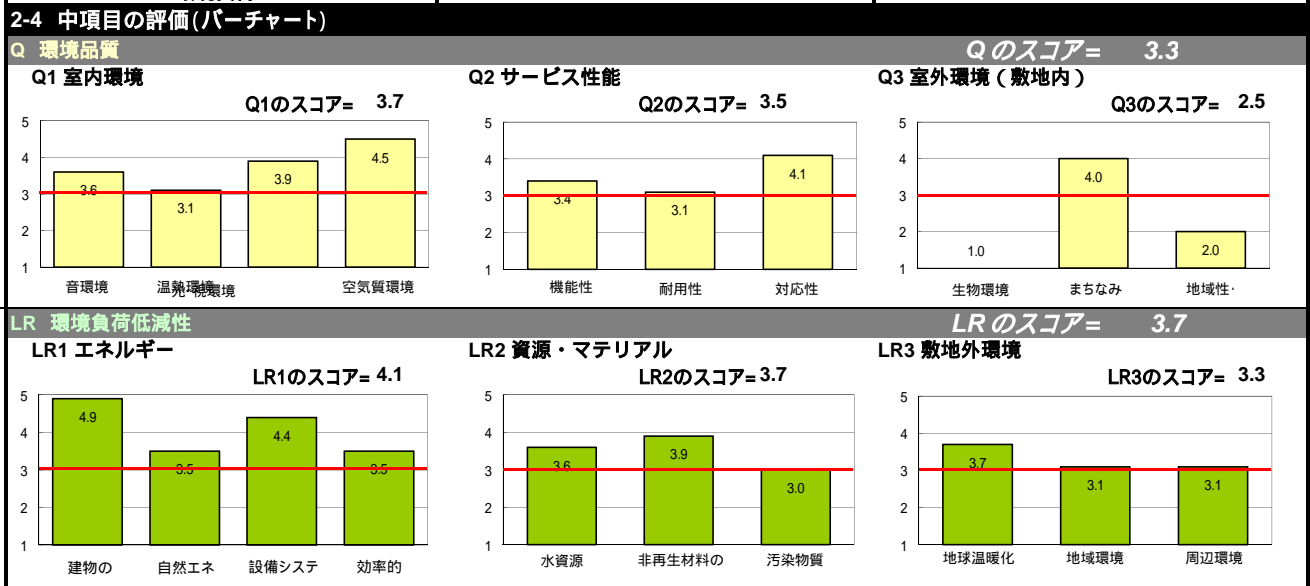
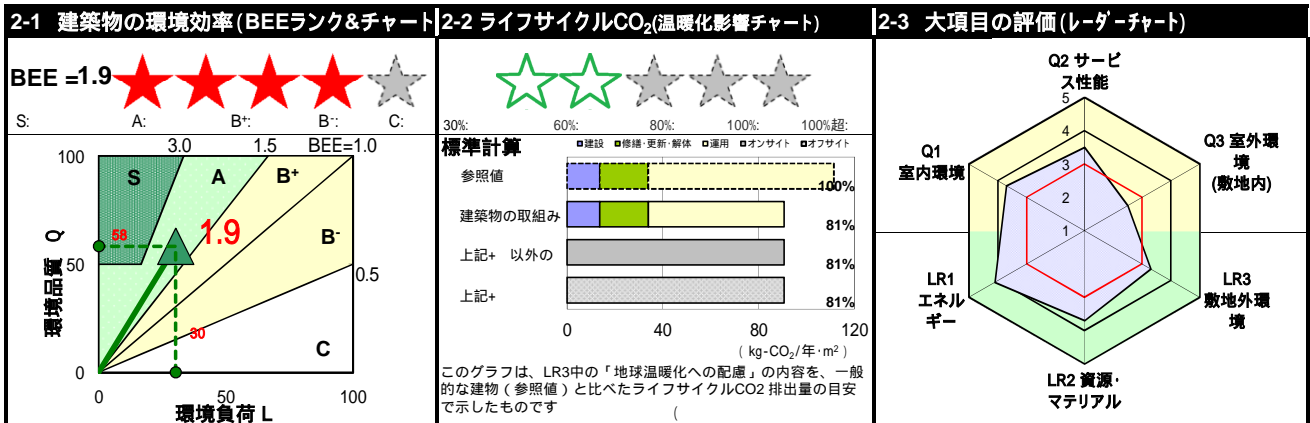
2 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価	評価点												
	88												
<p>【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進</p> <p>【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現</p> <p>【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全</p> <p>【重点事項4】 循環型社会の実現</p>	<p>評価点</p> <p>101.3</p> <p>58.7</p> <p>80.0</p> <p>98.2</p>												
<p>熊本県重点評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>判定値(評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>評価点は、100点以上が推奨です。</p>		判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示												
100点以上													
80点以上100点未満													
60点以上80点未満													
40点以上60点未満													
40点未満													

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)三菱電機(株)液晶事業統括部	階数	地上2F
建設地	熊本県菊池市泗水町住吉	構造	S造
用途地域	都市計画区域内(未線引区域)	平均居住人員	270人
気候区分	地域区分	年間使用時間	2,500時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年10月 予定	評価の実施日	2014年2月24日
敷地面積	130,416.68 m ²	作成者	
建築面積	2,096 m ²	確認日	
延床面積	4,050 m ²	確認者	



CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
 (仮称)三菱電機(株)液晶事業統括部LA棟

欄に数値またはコメントを記入

使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版
 評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境			0.40					3.7
1 音環境		3.6	0.15	-	-	-	-	3.6
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音		4.2	0.40	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能	T2以上のサッシュを使用	5.0	0.60	3.0	-	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	-	-	
1.3 吸音	床にタイルカーペット、天井に岩綿吸音板を使用	4.0	0.20	3.0	-	-	-	
2 温熱環境		3.1	0.35	-	-	-	-	3.1
2.1 室温制御		3.3	0.50	-	-	-	-	
1 室温		3.0	0.38	3.0	-	-	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-	-	-	
4 ゾーン別制御性	各方位毎に室外機系統を分割	4.0	0.38	-	-	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	-	-	
3 光・視環境		3.9	0.25	-	-	-	-	3.9
3.1 昼光利用		4.6	0.30	-	-	-	-	
1 昼光率	昼光率5.3%	5.0	0.60	3.0	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	-	-	
3 昼光利用設備	トップライトを採用	4.0	0.40	3.0	-	-	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	-	-	
2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-	-	-	
3 映り込み対策		-	-	-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	-	-	-	
3.4 照明制御	細かなゾーンごとに人感・照度センサーで自動調光	5.0	0.25	3.0	-	-	-	
4 空気環境		4.5	0.25	-	-	-	-	4.5
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	-	-	
1 化学汚染物質	F... を全面的採用、ホルムアルデヒドVOC放出量が少ない	5.0	1.00	3.0	-	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		3.6	0.30	-	-	-	-	
1 換気量	換気量は、建築基準法・ビル管法基準の1.2倍	4.0	0.33	3.0	-	-	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮	外気取り入れは汚染源のない配置とし、排気から6m以上の離隔	4.0	0.33	3.0	-	-	-	
4 給気計画		-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理		4.5	0.20	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視	主要室の換気量はCO ₂ 制御	4.0	0.50	-	-	-	-	
2 喫煙の制御	建物内禁煙、屋外に喫煙スペースを設置	5.0	0.50	-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	-	-	3.5
1 機能性		3.4	0.40	-	-	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 広さ・収納性		1.0	0.33	3.0	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応	コンセント容量60VA/m ²	5.0	0.33	3.0	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	-	-	-	-	
1 広さ感・景観	天井高2.8m	4.0	0.33	3.0	-	-	-	
2 リフレッシュスペース	喫煙スペース(外部)+リフレッシュコーナー+自販機置き場	5.0	0.33	-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	0.33	-	-	-	-	
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い内装材採用、外壁防汚措置等	4.0	0.50	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31	-	-	-	-	3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	11年以上20年未満	4.0	0.09	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	-	-	

2.3 適切な更新							
2.4 信頼性			3.4	0.19			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備	節水器具の採用、中水の利用。	4.0	0.20			
3	電気設備		3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備	通信手段の多様化。電源設備の地下設置なし。	4.0	0.20			
3 対応性・更新性			4.1	0.29			4.1
3.1 空間のゆとり			4.0	0.31			
1	階高のゆとり	階高3.7m以上	4.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.11	4.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり		4500N/m ² 以上	5.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性			3.6	0.38			
1	空調配管の更新性		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく、修繕・更新できる。	4.0	0.17			
3	電気配線の更新性	構造部材・仕上部材を痛めることなく、電気配線の修繕・更新がで	5.0	0.11			
4	通信配線の更新性	仕上部材を痛めることなく、通信配線の修繕・更新ができる。	5.0	0.11			
5	設備機器の更新性		3.0	0.22			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				0.30			2.5
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		建物高さなど、既存建物に配慮した設計	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30			2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性							3.7
LR1 エネルギー				0.40			4.1
1 建物の熱負荷抑制		PAL低減率 34%	4.9	0.30			4.9
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20			3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	トップライトによる自然採光	4.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化		全館LEDによるCEC/Lの低減	4.4	0.30			4.4
		集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)	4.0				
		集合住宅の評価	3.0				
4 効率的運用			3.5	0.20			3.5
4.1	モニタリング	エリア毎に、照明・空調の電力量を計測	4.0	0.50			
4.2	運用管理体制		3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				0.30			3.7
1 水資源保護			3.6	0.15			3.6
1.1	節水	節水型便器・擬音装置	4.0	0.40			
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.3	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無	中水の使用	4.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減			3.9	0.63			3.9
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメント	5.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	ビニル床シート、外装床タイル、OAフロア	5.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	仕上げと躯体が容易に分別可能	4.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22			3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32			
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68			
1	消火剤		-	-			
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50			
3	冷媒		3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				0.30			3.3
1 地球温暖化への配慮		LCCO ₂ の低減	3.7	0.33			3.7
2 地域環境への配慮			3.1	0.33			3.1
2.1	大気汚染防止	燃焼機器なし	5.0	0.25			
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50			
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25			
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
3	交通負荷抑制	駐輪・駐車・荷捌スペースの確保。	5.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33			3.1
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40			
1	騒音		3.0	0.50			
2	振動		3.0	0.50			
3	悪臭		-	-			
3.2	風害・砂塵・日照阻害の抑制		3.0	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	砂塵の抑制		3.0	-			
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30			
3.3	光害の抑制		3.7	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明なし	4.0	0.70			
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			

CASBEE[®] 熊本 《新築》 【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

トップライトによる自然採光やLEDなど省エネに配慮するとともに、コミュニケーションしやすい空間構成により知的生産性の高いオフィス空間をめざした。

Q1 室内環境

外周部は、サッシ高の低い横連窓や地窓を設け熱負荷を抑える。また、2階執務室中央にはトップライトを設け、方形のオフィス空間で光が届きにくい中央部分に自然光をとり入れる。

Q2 サービス性能

自然採光が入り込む執務室中央のエリアにはミーティングスペースやリフレッシュスペースを設けることで、人が集まりやすく、コミュニケーションを図りやすい空間構成とする。

Q3 室外環境（敷地内）

敷地内の既存中高木を生かしながら、さらに増築建物の北東側外周部に植栽を施している。

LR1 エネルギー

トップライトにより自然採光を取り入れるとともに、照明は全館LEDかつ人感・照度センサーによる省エネ化を図っている。

LR2 資源・マテリアル

躯体および仕上げ材にエコマーク品、グリーン調達品を使用

LR3 敷地外環境

十分な駐輪・駐車スペースを確保

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)三菱電機(株)液晶事業統括部LA棟

評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

使用評価マニュアル: CASBEE熊本(新築)2011年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		87.9
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
温室効果ガス排出量削減の推進				101.3	0.40	40.52
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	4.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.05			
LR1 1	建物の熱負荷抑制	4.9	0.15			
LR1 2	自然エネルギー利用	3.5	0.20			
LR1 3	設備システムの高効率化	4.4	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3 2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
安全安心で暮らしやすい社会の実現				58.7	0.20	11.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
県の地域資源の有効活用と保全				80	0.20	16.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
循環型社会の実現				98.2	0.20	19.64
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	4.1	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

総合評価結果

$$\text{総合評価点} = (\text{各重点事項の評価点} \times \text{各重点事項の重み係数}) \text{の総和}$$

重み係数の総和は、「1」であること。

各重点事項(~ の項目)

$$\text{評価点} = (\text{各重点項目のスコア} \times \text{各重点項目の重み係数}) \text{の総和} \times (5/4) \times 20$$

重み係数の総和は、「1」であること。

(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数